

映画で語る大川小学校津波事故 part 2

映画『春をかさねて』『あなたの瞳に話せたら』（佐藤そのみ監督、2019年制作）上映
＋アフタートーク

日時：2023年4月8日（土）13:00—16:00

会場：専修大学神田キャンパス（東京都千代田区神田神保町3-8）7号館3階731教室

*入場無料、事前申し込み不要

進行：13:00—14:20 映画上映 14:30—16:00 アフタートーク（コーディネーター：飯考行）

パネリスト：佐藤そのみさん（映像作家・大川小津波事故遺族）、永沼悠斗さん（大川小津波事故遺族）

主催：専修大学法社会学ゼミナール（問い合わせ：飯考行（専修大学法学部教授）iit@isc.senshu-u.ac.jp）



『春をかさねて』より



『あなたの瞳に話せたら』より

2011年3月の東日本大震災当時、佐藤そのみ監督は中学2年生で、大川小6年生の妹を亡くしました。『春をかさねて』は、自身の体験にもとづくフィクションで、災害ボランティアとの関わりや取材対応を、震災遺族となった中学生の視点から描いています。『あなたの瞳に話せたら』は、大川小の妹などを失った若者3人（佐藤監督を含む）が成長して亡き家族や友人への手紙を読む姿などを映すドキュメンタリーです。

これら2本の短編映画は、震災遺族や被災生存児童の震災当時の心境を表す貴重な内容で、各地の上映会で好評を博しています。大川小学校津波事故を語る上でも、発災直後の時期を記録した『大津波のあとに』（森元修一監督、2011年）、保護者が提訴にいたる経過と判決後の様子を描いた『『生きる』大川小学校 津波裁判を闘った人たち』（寺田和弘監督、2022年、全国上映中）とあわせて、必見の映画です。

東京で上映される機会は多くありません。アフタートークでは、佐藤監督に映画の内容や震災から現在までの心の動きなどをうかがい、佐藤監督の2歳年長で大川小2年生の弟と祖母、曾祖母を亡くし社会人となった現在も語り部を続ける永沼悠斗さんにご参加いただきます。ご来場をお待ちしております。

*関連書籍 飯考行編著『子どもたちの命と生きる—大川小学校津波事故を見つめて』（信山社、2023年）
（佐藤監督を含む50数人の大川小事故遺族と関係者の寄稿文で多角的に事故とその後をたどる本）